

２０２０年度式下中学校

進路通信　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 　2020.6.22

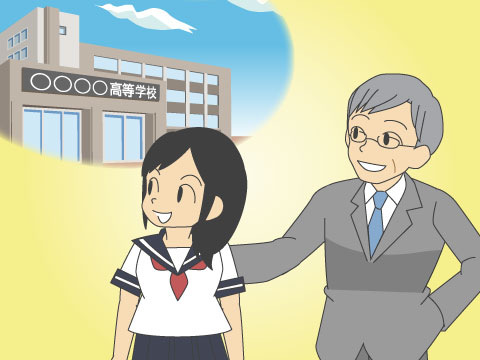
　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 　　　　　 第3-①号



さくら

高校について

　一口に高校と言っても、様々な学校があります。まず大きな違いは「公立高校」と「私立高校」ということです。その違いは、



　公立高校・・・都道府県や市町村が運営している学校

　私立高校・・・学校法人等が運営している学校

この「公立」「私立」という違い以外にも、様々な違いがあり、すべてが同じ教育課程や同じ学科・コースというわけではありません。他にも次のようなものもありますよ！

**【教育課程による分類】**

全日制・・・中学校と同じように、朝から夕方までの時間に学習します。

定時制・・・多くは夕方から夜の時間にかけて学習し、他にはⅠ部（午前）・Ⅱ部（午後）

・Ⅲ部（夜間）に分かれており、自分の学習スタイルに合った受講時間帯を

選択できます。

通信制・・・毎日は通学しないで、主に家庭で学習します。決められた曜日などにスクーリ

ングという登校日があり、宿題やレポートの提出が必要です。

**【学科による分類】**

普通科・・・幅広く普通科目、教科等を学びます。

専門学科・・・それぞれの専門科目を中心に学びます。

例：機械工学科、商業科、福祉科、国際英語科、音楽家、ｽﾎﾟｰﾂｻｲｴﾝｽ科など

　　どの学校がどんな教育課程でどんな学科を学習しているのかなどを、各学級にあるパンフレッ

ト等を見たり、先生たちに聞いたりするなどして、まず自分で情報を集めてみましょう。

■ 私立高校入試について

全ての高校に進学するためには、「入学願書」を提出し、「入学試験」（ 公立高校は「入学試験」と言わずに、「学力検査」と言いますが。）を受けて合格しなければなりません。そして、受験に万が一失敗すると行き先がなくなってしまいます。そうならないために、いくつかの高校をかけもちで受験する人が結構います。それが『併願』と言われるものです。それに対し、合格するとその学校に入学すること（主に私立高校）を約束して受験することを『専願』と言います。

■ 専願と併願の違い

専願と併願の違いは、単純に言えば上で書いただけなのですが、特に私立高校の場合、知っておいてもらわないといけないことがあります。その前に１つおさえておかなければいけないことは、「公立高校を受検し合格をしたら、必ず入学をしなければならない」ということです。そして、入試の日程は『私立高校→ 公立高校』の順番です。ですから、先に入試を実施する私立高校の立場で考えると、併願者よりも専願者の方がありがたいことになります。つまり、「専願」の受験生は、「合格したら、必ずそちらの高校に入学をします。」と約束をしているわけです。それに対し、「併願」の人は多くの場合、公立高校を受検します。公立高校は先述の通り、合格すれば必ず入学しないといけませんから、私立高校からすると「合格しても、そちらの高校に入学しないで他の高校（公立高校など）に入学するかもしれません。」という意味になります。ですから、合格を出しても来てもらえるかどうか分かりません。定員を割ってしまうと、高校としては経営が苦しくなりますから、合格すれば必ず来てくれる専願者のほうがありがたいわけです。従って、多くの私立高校では併願よりも専願の方が合格基準は少し易しく設定されます。行きたい高校に併願では成績的に手が届きそうにない場合でも、専願だと合格基準に達する場合は多々あります。

さて、併願のパターンにはいろいろありますが、主なものとしては次の通りです。（私立高校は、奈良 →県外(大阪、兵庫、京都)の順番で行われます。そこで、次の②～④のようなパターンが出てくるわけです。）

1. 私立（奈良県or県外）（併願）＋ 公立
2. 奈良県私立（併願） ＋ 県外私立（併願）＋ 公立
3. 奈良県私立（併願） ＋ 県外私立**（専願）**＜県外私立が第一志望のパターン＞
4. 奈良県私立 **(専願)**　＋ 県外私立 (併願)　 ＜奈良県私立が第一志望のパターン＞